

第2回 大田区新基本計画策定懇談会 議事要旨

日時	令和2年1月14日(火) 午後6時～7時半
会場	大田区役所 201～203 会議室
出席者	青山委員(会長)、村木委員(会長代理)、犬伏委員、奥委員、勝亦委員、藏方委員、佐藤委員、澁谷委員、清水委員、鈴木委員、田中委員、玉井委員、西山委員、西脇委員、舟久保委員、松原委員、宮澤委員、湯地委員(役職・50音順) 岡元顧問、塩野日顧問

1 開会

【事務局】

- ・ 第2回新基本計画策定懇談会を開催する。

2 区長挨拶

【区長】

- ・ 第2回懇談会の開催にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。
- ・ 11月8日の第1回懇談会では昨今の社会背景を捉えた、貴重な意見を多数いただき、計画策定にあたって新たな気づきをいただいた。
- ・ 委員の皆様が大田区の未来について真剣に関心を持っていることに感謝するとともに、その期待に応えた計画にしなければと肝に銘じたところである。
- ・ 基本計画は基本構想で掲げる将来像の実現に向けて、区の施策の方向性を区民に示す重要なものである。
- ・ 本日は基本計画の骨格となる施策の体系等について検討をいただく。
- ・ 各委員の知見や経験を活かした意見をいただくことで、社会情勢の変化を捉えた、しなやかでありながらも、骨太な施策を構築していきたい。
- ・ 活発な審議をいただくようお願いし、ごあいさつとさせていただきます。

3 議題

議題1 第1回大田区新基本計画策定懇談会の開催結果報告について

【会長】

- ・ 事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- ・ (資料1～3-2を説明)

【会長】

- ・ 事務局より説明があった。ご意見・ご質問があれば発言してほしい。

【委員】

- ・ 資料 3-1 のインバウンドに関するデータについて、外国人の宿泊者数が急激に増加していることがわかる。大田区では特区民泊の条例を定めて取り組んでいるが、その取組とこのデータとの相関関係など、分析していることはあるか。

【事務局】

- ・ 平成 21 年から平成 30 年で 4.8 倍に増加している。特区民泊の効果もあると考えられるが、相関関係まではわからない。
- ・ 日本全体でインバウンドが増加しているため、それに合わせて増加していると思う。

【委員】

- ・ 特区民泊を始めたのはいつからか。

【健康政策部長】

- ・ 平成 28 年 1 月から全国初の取組として始めた。
- ・ 利用者は増加しており、直近で宿泊定員が 2,000 人に達している。外国人の割合も比較的高くなっているため、インバウンドの受け皿にはなっていると思う。

【委員】

- ・ 環境に関する追加データの温室効果ガスの排出量について、大田区には羽田空港があり、ここから温室効果ガスが多く出されているのではないかと思う。羽田空港の数字も含まれているのか。

【環境清掃部長】

- ・ 羽田空港については、ビルなどの建物の排出量は含まれるが、離発着する航空機の排出量については含まれていない。

【委員】

- ・ 個別に羽田空港の数字は把握しているのか。

【空港まちづくり本部長】

- ・ 離発着する航空機の排出量については、国際的な民間航空機関である ICAO で温室効果ガス排出の規制が議論されており、そうした国際的な枠組みのもとで管理している。

【委員】

- ・ 就学援助比率の追加データについて、要保護と準要保護とあり、要保護は生活保護世帯の子ども、準要保護はそれよりは若干所得の多い世帯の子どもが該当すると思うが、生活保護世帯の中で教育扶助をもらっている家庭は要保護の中に入っていないという理解でよいか。
- ・ 生活保護世帯の中でも、修学旅行費等の就学援助に係るものをもらっている世帯がここに上がっているのか。

【教育総務部長】

- ・ 要保護は生活保護世帯に関するもの、準要保護は生活保護基準の該当者に関するものである。

【委員】

- ・ そうすると、生活保護世帯の中で就学援助は受けていないが、教育扶助は受けているという世帯を含めるともっと数は多くなるということでしょうか。

【教育総務部長】

- ・ こちらのデータは申請に基づいて把握している人数である。

【委員】

- ・ データは現実を明らかにするために使うものである。生活保護を受けている世帯で就学援助を受けている世帯はこれだけであるが、実際にはもっと援助を受けて学校に通っている子どもがいるということをわかりやすく明示したほうが、現実を直視することができる。
- ・ これだけでも 3 人に 1 人が援助を受けていることがわかるが、就学援助を申請していない生活保護を受けている世帯の子どもはもっとたくさんいると思う。
- ・ 例えば平成 30 年のこうした小学校の生徒はどれくらいいるのかわかるか。

【教育総務部長】

- ・ 生活保護法による教育扶助を受けている人はこのデータには入っていないため、そうした人はこの数にプラスされることになる。
- ・ 生活保護受給者の数はわかるが、手元にデータがないため正確にはわからない。

【委員】

- ・ 法律や制度の違いがあるのはわかるが、データを示す上では、大田区の子どもたちにどれくらいの割合で貧困の中で教育を受けているのかわかるものがあるとよかった。

【会長】

- ・ これらに関する議論をする際にわかる範囲で出せるデータがあれば準備をお願いしたい。
- ・ 就学援助比率のデータをみると中学生で 27%が就学援助を受けていることになる。この数字が高いとみるか低いとみるかはそれぞれの感覚によって異なると思う。
- ・ 東京都や 23 区の中には就学援助を受けている割合が 4 割～5 割の自治体もあることからすると、大田区はそこまで高いわけではないと思う。
- ・ 生活保護世帯で就学援助を受けていない世帯というのはそれほど大きな数にはならないとは思いますが、いることは事実だと思う。27%以外にも支援を受けている子どもがいることは理解しておく必要がある。

【委員】

- ・ 追加データについて、トレンドがわかるように数字だけでなく、グラフにして示してもらえるとわかりやすく、事態の深刻さもわかると思う。

【会長】

- ・ その通りだと思うので、いずれデータを出していただく際はよろしくお願ひしたい。

【委員】

- ・ エクセルデータをそのまま提供してもらえれば、今意見があったことはできると思う。
- ・ 外国人宿泊者数については、ホテルの客室数を把握できないと、判断できないのではないかと考える。できればホテルの客室数や民泊の数などを合わせて提示いただきたい。
- ・ 環境については詳細な年度別のデータがあると思う。産業別やごみ、分別などデータを出してもらえると、他の産業の変遷などと一緒にトレンドが見られるのではないかと考える。

【会長】

- ・ これらについても把握できるかどうか確認をお願いします。
- ・ ホテル税については、20 年ほど前に東京都が新設したが、その際は観光客が日本の資源の割に少ないため、観光客増加のために使うという考え方であった。
- ・ 20 年経った今になると新たな課題が出てきた。インバウンドが増えることによる経費をどう賄うかという議論の段階になってきたという説もある。
- ・ 今日はそうした議論をする回ではないが、議論する際に材料になるかと思う。

【委員】

- ・ 情報セキュリティの資料について、各請求件数の数字が示されているが、人口 70 万人を超える大田区で審査請求件数が 2 桁にもならないのは少なすぎる印象を持つ。他の区との比較や順位でみるとどうなのか。

【事務局】

- ・ 比較については行っていない。比較できるか確認してみる。

【委員】

- ・ 審査請求できるということが区民に周知できているかどうか気になったため、ぜひ確認をお願いしたい。

【総務部長】

- ・ 行政処分を行う際に不服がある場合は審査請求を行っていただくように個別に案内は出している。

【委員】

- ・ 全ての行政決定文書には 14 日以内に不服ならば請求するように記載されているのは把握しているが、それを実際に行う際の手続きのしやすさなどいろいろな工夫があるのかなと思ったため、他区の状況を知りたい。

議題 2 区民ワークショップ等の開催結果について

【会長】

- ・ 事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- ・ (資料 4-1～4-3 を説明)

- ・ ワークショップ参加者の方から当日の様子や参加して感じたことなどを報告いただく。

【ワークショップ参加者 A氏】

- ・ 子育て、教育部分について報告する。
- ・ 私は来月で1歳半になる子どもの子育てをしている。出身は東北地方で、3年前に北海道から大田区に転入してきた。まだまだ分からないことが多いがワークショップを通じて勉強させていただいた。
- ・ ワークショップで出された意見を整理すると大きく3つに分けられる。
- ・ 1つ目は保育園の拡充や子育ての相談など幼児を取り巻く環境の改善に関することであり、待機児童の改善、働く親へのサポートの充実を求める意見が目立っていたように感じる。
- ・ 2つ目は学童の教育に関することが多く挙げられた。大田区は23区で唯一空港を持っていることもあり、グローバルな国際都市を思い描いている人が多く、英語教育を受けられたり、国際交流の機会などがあったりすると子供にとって良い環境が作れるのではないかという意見が聞かれた。
- ・ 3つ目は子どもを取り巻くハード面、環境の整備に関することについてである。具体的には登下校で利用する通学路の街灯の整備や学童の放課後の教室の整備に関することで、共働き家庭の保護者が安心して子どもを預かってもらえる場所があったらよいのではないかという意見が多く出された。
- ・ ワークショップに参加して、大田区の良いところや、区民が主体となって改善策を考えることで、地域に対する愛着が湧いたように感じる。私の場合、子どものふるさとなる場所が大田区になるため、よりよいまちづくりについて考える場に参加することができて嬉しく思う。
- ・ 今回のワークショップは15歳以上が対象であったため、第1回懇談会の議事要旨にもあるように、15歳未満の子どもの意見も聞ける機会があるとまた違った意見が聞けて良いのではないかと思う。

【ワークショップ参加者 B氏】

- ・ 地域力の分野について報告する。
- ・ 地域力に関することでは、区に関する情報が入りにくいという意見がよく聞かれた。地域のイベントや催し物が開催されていても、そうした情報が入ってこないため参加することができないことがある。情報の発信の仕方を変えていくと変わるのではないかという意見が出された。
- ・ 駅や公園等の掲示板にこうした情報が掲示されていても見る機会は少ないため、ITを活用するなどして、もっと自然に情報が入るようにできると良いのではないかと思う。
- ・ 治安や防犯に関することについてもいくつか意見が出された。
- ・ 防犯や治安のよいまちである印象があるという話が出た一方で、どういった取組をしているから良いまちになっているのかわからないという声も聞かれた。そうした部分

の情報発信もしていけたら伝わるのではないかと思う。

- ・ ワークショップに参加してみて、区民の方は全体的には満足しているのではないかと思った。意見としてもネガティブなものは少なかったように感じる。しかし、それに甘えることなく、行政と区民とが連携してよりよいまちを作っていきたいと思う。
- ・ ワークショップはコミュニケーションが取れる良い機会であったと思う。こうした機会をもっと増やしていただきたい。

【ワークショップ参加者 C氏】

- ・ 産業分野について報告する。
- ・ 様々な意見が出され、意見については報告書に記載されている内容になる。その中でも議論の大きな部分として、大田区にはコレというものがないという話を中心になった。
- ・ 私は今回のワークショップに参加することで大田区愛に目覚めた。区の掲示板を立ち止まって見るようになったり、娘が小学校で受け取ってくるチラシ等も見えるようになったりした。この年末に帰省する際のお土産も東京土産ではなく、大田区のものにした。
- ・ 掲示板や区報などの情報は受け身になってしまうため見ない人もいると思うが、ワークショップの場合は、共通のテーマについて直接会って話をするため、区民の人を能動的にする良い機会であり、大田区愛に目覚めるきっかけにもなると思う。
- ・ 私のように大田区愛を持った人が大田区土産を持って地方に行く、その地方の人がお土産に触れることで、どこかでヒットするかもしれない。小さいきっかけかもしれないが10年という期間で考えると、大きな変化のきっかけになるかもしれないのではないかと思う。
- ・ 今回のワークショップは楽しかったので、今後も開催していただきたい。計画策定に多くの人関わっていることに感謝したい。

【ワークショップ参加者 D氏】

- ・ 環境の分野について報告する。
- ・ 参加者の意見としては、気持ちよく生活できる環境を求めているということである。
- ・ 道路や緑化、自然環境の保全に関する意見、公園に関する意見が出された。公園についてはトイレが設置されているものの、汚かったり、使いづらかったりするのでキレイで使いやすいものにしてはどうかという意見が出された。
- ・ ごみに関して、私の出身の福岡ではごみの収集を夜間に行っている。東京に来て朝にゴミの山を見たときに驚いた。夜間にゴミの収集を行うとカラスが散らかすこともなく、朝の通勤の妨げにもならず、きれいな状態で通勤・通学することができるため、そうしたことができるよいか。
- ・ ごみの分別について、大田区では焼却炉の性能の良さもあって細かく分別する必要はないと思うが、資源を有効に使うためにリユースできるような分別を考えられたらと思う。

【ワークショップ参加者 E氏】

- ・ 都市基盤・空港臨海部について報告する。
- ・ 課題としては主に交通網の整備、災害対策の強化があげられた。
- ・ 大田区には羽田空港があることが特徴である。国内では成田空港と競争関係にあり、アジアでは中国の北京空港が 365 日 24 時間体制になってきており、集客の面ではこちらにも競争相手になっている。
- ・ こうした状況の中では、羽田へのアクセス向上を考えないといけないと思う。そう考えたときに蒲蒲線が重要になる。
- ・ 東急と相模鉄道が JR とつながった。2 年後には東急と相模鉄道がつながる予定である。そうすると新横浜からダイレクトに多摩川まで来ることができる。多摩川から先についてもつながることができれば、1 本でアクセスすることが可能になり、もっと人が来るようになると思う。
- ・ こうした意味でも蒲蒲線は必要であり、予算を優先的に確保することも考えてはどうかと思う。
- ・ 同時に空港に来てもらうだけでなく、そこにお金を落としてもらう工夫が必要だという意見も出た。例えば、ホテルやエンターテインメント施設を建設したり、観光地化したりするなどの工夫が必要である。
- ・ 昨年の台風 19 号では大田区でも多摩川の氾濫があり、一部の地域で被害があったため、防災対策に一層取り組む必要があるという意見も出された。よく想定外だと言われることがあるが、想定の見直しを図っていくことにも必要ではないかと思う。

【ワークショップ参加者 F 氏】

- ・ 産業の分野について報告する。
- ・ 私の感覚としては、大田区について考えるときに産業は他の分野に比べてイメージできるものが少ないと感じる。
- ・ ワークショップでの意見を整理すると、大きくは商業、町工場、PR の 3 つに分けられる。
- ・ 商業について、複合施設は川崎など近隣の地域に多くあり、交通の便が良い大田区は通過点になってしまっていると感じる。大田区に訪れることが目的になるような複合施設があるとよい。
- ・ 町工場について、これは大田区らしさであるため、もっと発信できるとよいと思う。町工場の名物をつくったり、見学ができたりすると良いという意見も出されていた。また、そうした取組をする町工場に財政的な支援ができると良いのではないかと思う。
- ・ PR について、情報発信に統一性がないと感じている。例えば、渋谷や秩父、谷根千などには共通して思い浮かべることができるイメージがあるが、大田区には統一されたイメージがない。勝海舟を用いたポスターで歴史的なイメージを発信している一方で、SNS のハッシュタグのような新しいイメージを用いた発信を行うケースも見られる。そうした部分で発信力に欠けていると感じる。個人的には町工場のイメージを発信して

いきたいと考えているが、何か大田区としてまちのイメージが持てるような統一したイメージでPRできたらよいと思う。

【ワークショップ参加者 G氏】

- ・ 健康・福祉について報告する。
- ・ ワークショップで多く出された意見としては、大きく3つある。1つ目は医療費助成の充実、2つ目は年代を問わないスポーツ施設の整備、3つ目はバリアフリーの推進である。
- ・ 1つ目の医療費助成については、特にインフルエンザの予防接種の助成の拡大について意見が出された。検討していたグループのメンバー全員がもっと拡充が必要であるという意見で一致した。
- ・ 2つ目の年代を問わないスポーツ施設について、高齢化が進行する中で、高齢者がいつまでも健康で暮らせるようにするために必要であり、子どもたちにとっても運動する場所が限られているなかでそうした施設があると遊び場の確保にもつながる。また年代を問わない施設にすることで、高齢者同士の交流や地域力醸成の場にもなると思う。
- ・ 3つ目のバリアフリーについては特に意見が多く出された。施設内のバリアフリー化は進んできたが、道路の段差の解消には課題がある。私も街なかを歩いているときに、車いすで一人で移動しているお年寄りの方を見かけたときに心配になることがある。バリアフリーを推進して、もっと安心して暮らすことができるまちづくりが必要であると思う。
- ・ 現在ガールスカウトに入っており、LGBTの問題について考える機会がある。トランスジェンダーの人が心の性別にあっていないトイレに入るのが負担になっていると聞いた。多目的トイレのように、性別に関係なく使える「誰でも使えるトイレ」を、空港があり様々な人の出入りがあり、国際的なまちである大田区だからこそたくさん設置してほしいと思う。
- ・ ワークショップへの参加を通じて、様々な年代の人の違った視点の意見が聞けたり、その一方で年代問わず共通して感じている課題もあったりして、いろんな性別、年代の人が話し合う機会は改めて重要であると感じた。

【ワークショップ参加者 H氏】

- ・ 地域力について報告する。
- ・ 先程同じ分野の方が情報発信について報告されていたので、私からはコミュニティや治安について報告する。
- ・ 私自身が高校生であるため、参加していたグループではいじめや学校生活について質問を受けることが多かった。子どもを持つ参加者の方からは学校での友人関係についてわからないという意見が聞かれた。
- ・ いじめとして具体化しなくても、友人関係で悩みを持つ人は多いように思う。そうした悩みについて担任の先生には相談しにくく、不登校になる人も各クラスにいる。自分の

通っている学校以外にも友人を作ることができると自信にもなると思うため、そうした機会づくりができると思う。

- ・ 治安について、私の周りには気さくな人が多く、あいさつをすると笑顔で返してくれる人が多いが、自分からあいさつする人は少ないように感じる。普段からコミュニケーションが取れていないといざというときに助けを求めにくいと思う。
- ・ 別の学校の生徒とのつながりだけでなく、別の年代の方とコミュニケーションを取る機会があればよいと考える。例えば、老人ホームに子どもが入れるように開放日を設けたりすると大人と子どもが気軽に会話できると思う。別の年代の人とつながることによって、新たなコミュニケーションを築くことができたり、いざというときに助けを求めたりすることができる場にもなると思う。
- ・ 情報に関することについては、広報が届いても見ないで捨ててしまっていて情報がわからないということがある。10代ではSNSを見ている時間が長いため、そうした堅苦しくない情報発信があってもよいと思う。
- ・ ワークショップに参加することで、普段話さない年代の人の話も聞くことができた。私のグループではいじめについて話すことが多かったが、子育てをしている保護者の方からは、いじめの実態がわからないということも聞かれた。
- ・ 自分のことを全く知らない第三者の方が話しやすい場合もあるため、そうした人と話せる機会があると良いと思う。

【会長】

- ・ 忙しいところ、懇談会に参加してワークショップの結果について説明いただき、ありがとうございます。

議題3 新たな基本計画の施策体系案について

【会長】

- ・ 事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- ・ (資料5～6を説明)

【会長】

- ・ 検討については今後行っていくことになるが、ご意見等あればお願いしたい。

議題4 その他

【会長】

- ・ その他報告事項について事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- ・ 第3回懇談会は令和2年4月24日(金)18時から本日と同じ会場での開催を予定している。ご出席のほどお願いします。

4 閉会

【事務局】

- ・ 数々の貴重な意見をいただきありがたく思う。本日の意見を踏まえ、新たな基本計画を作成していきたいと思う。

以上